

中期経営計画「SPEED 25/30」(2021年度～2030年度)

VISION

スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと
環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢献する企業

メッセージ

保土谷化学グループは、

- S** スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれる
- P** ポートフォリオを構築し
- E** エンゲージメントの向上による
- E** ESG経営の推進と
- D** DXによる競争力強化で

「目指す姿」(2025年度)

「ありたい姿」(2030年度)に

スピーディーに変わってまいります

保土谷化学グループの「2025年度までの目指す姿」

事業強化

新製品創出

生産性向上

経営基盤強化

「事業戦略のロードマップ」

- 「戦略事業」「基盤事業」それぞれの持続的な成長を実現
- 選択と集中を進め新たなポートフォリオを構築

- 戦略事業の技術革新を推進し、事業拡大に貢献
- 研究開発テーマの早期事業化
- 新たな領域展開のために研究開発テーマの持続的な創出

- 新製品を速やかに立ち上げる体制の完備
- 環境に優しい製品を、常に高い生産性で、安全・安定に生産

- 組織能力の向上
- 働きがいの向上
- 社会的価値の台頭への対応
- 財務面でのさらなる改善
- 業務効率の向上

成長に資する「戦略投資(事業<M&A含む>・設備・IT・インフラ)」の実行

「サステナビリティの推進」「DXの推進」

2030年度のありたい姿

事業強化	事業ポートフォリオが適切に構成されている	DXの推進
規模拡大	グローバル市場に新製品が継続して創出されている	
効率化	高い生産性を実現している	
従業員視点	働きがいが向上している	
社会的視点	SDGs達成に貢献し、環境に優しいを実現している	
株主視点	長期に継続して安定的な配当を実現している	

フェーズ1

フェーズ2

経営目標の進捗

		2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2025年度経営目標
財務目標	売上高	418億円	433億円	442億円	500億円
	営業利益	64億円	37億円	39億円	75億円
	営業利益率	15.3%	8.5%	8.9%	15%
	ROE	8.1%	5.3%	5.5%	9%
非財務目標	CO ₂ 排出量(CO ₂ 排出原単位)	49,247t-CO ₂ (1.1759t-CO ₂ /売上高百万円)	45,722t-CO ₂ (1.055t-CO ₂ /売上高百万円)	35,649t-CO ₂ (0.805t-CO ₂ /売上高百万円)	43,400t-CO ₂ (0.868t-CO ₂ /売上高百万円)
	エネルギー原単位(売上高・百万円当たり)	0.698kl	0.636kl	0.495kl	0.606kl
	産業廃棄物発生量	2,746 t	3,477t	2,523t	前年度発生量以下
	ESG評価スコア(FTSE Russell評価)	2.7	3.0	3.6	3.7
	エンゲージメントスコア	-	-	-	スコアの段階的向上
	女性管理職比率	11%	11%	11.3%	13%

中期経営計画「SPEED 25/30」（2021年度～2030年度）

「SPEED 25/30」2023年度の進捗

「中期経営計画SPEED 25/30」3年目となる2023年度は、経済活動の持ち直しが見られ緩やかな回復基調となりましたが、継続している不安定な国際情勢等の影響によるエネルギー価格の高止まり、円安の長期化、それらに伴う物価の上昇など、先行き不透明な状況下での事業活動となりました。そのような環境において、これまで有機EL材料製造の一端を担ってきた韓国REXCELを、2023年4月より新たにグループ連結の対象とし、さらなる販売拡大と、量産に向けた生産体制を確立するため、戦略投資を実行しました。

2023年度 事業面での進捗

セグメント	サブセグメント	事業強化	新製品創出	生産性向上	実績	
					売上高構成比	営業利益構成比
機能性色素	有機EL・先端材料事業	・顧客との関係強化、技術紹介 ・新規材料での用途拡大 ・新バイオ棟（BioPark）稼働 ・国内評価拠点強化	・有機ELの開発推進 ・新規テーマの探索を推進 ーリチウムイオン電池材料（有機正極材料） ー有機太陽電池材料（ペロブスカイト） ー近赤外線吸収材料 ・新製品開発に資する試作専用設備の設置	原単位削減のコストダウン	48.0% (212.3億円)	80.9% (31.9億円)
	色素材料事業	・環境対応型アルミ着色用染料の上市	・環境対応型アルミ着色用染料の開発推進			
機能性樹脂	機能化学品事業	・新規バイオPTGの上市・拡販	・特殊グレードの開発 ・ホスゲン誘導体ベンチスケール設備の設定	・ホスゲン誘導体生産設備の増設検討と推進	18.8% (83.4億)	▲2.4% (▲0.9億円)
	建築材料事業	・次世代塗膜防水材の拡販				
基礎化学品	パーオキシサイド事業	・過酢酸（食品添加物）の用途拡大		・農業資材分野向け製品の生産能力増強	17.7% (78.4億)	5.2% (2.0億円)
アグロ	農業事業	・農業用過酸化物の事業拡大			11.2% (49.4億)	9.5% (3.7億円)
物流関連	物流関連事業				3.9% (17.0億円)	6.3% (2.5億円)

2023年度 主要な施策の進捗

経営基盤強化		2023年度実績	2025年度非財務目標
戦略投資		・韓国SFC 新バイオ棟（BioPark）稼働開始 ・韓国REXCEL 忠州キャンパス 第2工場、陰城キャンパス 新工場建設施工開始	—
エンゲージメントの向上	・健康経営の推進 ・ダイバーシティ人材の活用	・健康経営優良法人 4年連続認定 ・ダイバーシティ研修の拡充 ・フレックス制度の適用拡大（試験導入決定） ・従業員株式給付制度の導入 ・マルチアセスメント（多面評価）の対象拡大	・エンゲージメントスコアの段階的向上 ・女性管理職比率：13%
サステナビリティの推進	・CO ₂ 排出量削減 ・エネルギー原単位の削減 ・産業廃棄物発生量削減 ・電力使用量削減 ・ESGの推進	・CO ₂ 排出量削減：35,649t-CO ₂ （0.805t-CO ₂ /売上高百万円） ・エネルギー原単位の削減：エネルギー：0.4952kI/売上高百万円 ・産業廃棄物排出量削減：2,523t ・CO ₂ フリー電力使用（横浜工場、筑波研究所） ・ICPの活用 ・ESG評価スコア（FTSE Russell評価）：3.6	・CO ₂ 排出量削減：43,400t-CO ₂ （0.868t-CO ₂ /売上高百万円） ・エネルギー原単位の削減：0.606kI/売上高百万円 ・産業廃棄物発生量削減：前年度発生量以下 ・ESG評価スコア（FTSE Russell評価）：3.7
DXの推進・業務効率化	・業務改革の推進と基幹システムの更改に向けた各種検討推進	・RPA人材育成 ・ERPシステムの更改の推進 ・押印業務の効率化	—

戦略投資・新たな事業ポートフォリオの構築

機能性色素セグメント：REXCEL（韓国）

韓国REXCELはさらなる販売拡大に対応するべく、設備を増強し、量産に向けた生産体制を整えています。

「忠州（チュンジュ）キャンパス」では、第2工場を新設し、「陰城（ウムソン）キャンパス」では、8月に新工場が竣工し、9月より稼働を開始します。

これら2つの戦略投資により、有機EL材料の一部の工程の生産能力を倍増させるとともに、独自の精製技術を活かした半導体材料の展開等を進めてまいります。



上：忠州キャンパス 下：陰城キャンパス

「SPEED 25/30」2024年度以降の取り組み

当社グループが2025年度までに「目指す姿」に掲げている「事業強化」において、グローバルな連携をより一層推進し、戦略事業と基盤事業のそれぞれの持続的な成長を実現するため、昨年の4月と7月に組織改編を行いました。また2024年4月より新たに、戦略事業における国内の評価拠点を強化し、より高度な知識ときめ細やかな対応で、お客様のご要望にスピーディーにお応えしてまいります。

引き続き、技術革新を通じて「温室効果ガス（GHG）排出量の削減」や「環境対応型製品の創出」等、環境負荷低減への取り組みを着実に実行し、オリジナリティあふれるポートフォリオと環境に優しいものづくりで、持続可能な成長を目指します。

事業面での取り組み

セグメント	サブセグメント	事業強化	新製品創出	生産性向上
機能性色素	有機EL・先端材料事業	・グローバルな技術サービス拠点の最適化（技術紹介・顧客との関係性強化） ・グローバル事業に資する人材の育成&確保 ・バイオ事業の新たな展開	・次世代技術への対応 ・有機ELの開発推進 ・新規テーマの探索を推進 ーリチウムイオン電池材料（有機正極材料） ー有機太陽電池材料（ペロブスカイト）	・専用設備の設置（安定的生産基盤確保）
		・カラーフィルター材料の拡販	・新規テーマの探索を推進 ー近赤外線材料 ・新製品開発に資する試作専用設備の設置	
機能性樹脂	色素材料事業	・環境対応型アルミ着色用染料の上市・拡販 ・天然色素の用途開拓（食用以外） ・ハラル品の拡販	・環境対応型アルミ着色用染料の開発推進	・アルミ着色用染料の増産体制の確立 ・環境対応型アルミ着色用染料の供給体制の確立
		機能化学品事業	・新規バイオPTGの上市・拡販 ・ホスゲン誘導体のグローバル拡販強化	・特殊グレード品の開発 ・新規ウレタンの開発推進 ・ホスゲン誘導体試作設備の設置
基礎化学品	パーオキシサイド事業	・次世代塗膜防水材の拡販		
		・工業薬品分野での拡販 ・過酢酸（殺菌・食添用途）での拡販	・農畜資材の用途開発	・計画的な設備更新
アグロ	農業事業	・新規原体導入による事業拡大 ・農業用過酸化物の事業拡大 ・新規緑地事業での需要開拓 ・開発・販売における顧客との関係性強化	・堆肥と酸素供給剤の新農業資材の開発	・酸素供給剤の生産能力の増強
		物流関連事業	・ISOタンクコンテナ保管事業の拡大	・IT活用による自動化・運用の効率化検討

主要な施策の取り組み

経営基盤の強化	内容
戦略投資	・韓国REXCEL 忠州キャンパス 第2工場、陰城キャンパス 新工場の完成・稼働 ・ホスゲン、アグロ（酸素供給剤）生産設備増強
エンゲージメントの向上	・フレックス制度の適用拡大（試験導入）、「本の要約サービス」導入等、各種新規施策の実行 ・健康経営の推進 ・ダイバーシティ人材の活用 ・人的資本投資の強化
サステナビリティの推進	・ESGの推進 ・CO ₂ 排出量削減 ・電力使用量削減 ・産業廃棄物発生量削減
DXの推進・業務効率化	・保土谷化学グループが蓄積しているデータの利活用 ・RPA化の推進およびDX教育とリーダー育成 ・業務効率化のさらなる推進（業務効率化推進PJ）

新たな事業ポートフォリオ構築のイメージ

2025年度までの重要施策を実行し、新たな事業領域に発展させることを目指し、「事業戦略のロードマップ」に示した「目指す分野」への展開を加速する。

保土谷化学グループのイノベーションの歴史→P.11 事業戦略のロードマップ→P.29

